

# みんなの居場所

## 裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せておきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和7年10月6日(月)

自分が他人からどう見られているか?若い頃気になつて仕方がなかつた。自分に自信が持てず卑屈な性格だったこともあり、常に周囲からの目を気にしていた。自信が持てるようになるには経験と学びによる自己変革が必要だ。それをしてこなかつたという後悔が、変革の原動力になつて、更に自分を厳しく見つめる目を持つようになつたことは、大きな成長だと自負している。これに早く気が付いていればもっと優れた教師になれたのに…。

自分自身を冷静に客観的に振り返る時間は必要だ。よい良い仕事をするために自分を厳しく振り返つた。

今はスマートホンが当たり前になり、緊張しながら異性との電話をかけていた時代は遠い昔です。私も音楽時代を懐かしく思つ出しながら、「切なさ」を感じられない時代だと思つました。また、SNSの盛んな時代で、子ども達のコミュニケーションの種類も豊富になりました。何をするかのあつきで、対面による知識的な会話をあまり見かけません。私は世代など、丁寧な言葉つかいで何かも練習したのですが、

雑感

## 携帯・スマートホンが普通に使われる時代を憂う

あの新聞の看板を紹介します。携帯電話のある今の時代はもう古い時代に決まりました。それまでの間、少しでも外での生活を慣れたので外出許可を取るようになりました。と言っても午前半日とか午後半日とか短い時間です。

友人から手紙が届き、新聞の紙面が同封されていた。聞いた途端、私は息をのんだ。「旧陸軍〇〇飛行場」の見出しがあった。

思い出せば、もう七〇年近くも前の事。女学校在学中、バレーボール部だった私は、たびたび遠征していた。その練習風景を、いつもたたずんでじっと見ている涼々しい士官候補生がいた。先輩の知人かなと思いつつ、いつしか私は彼を意識するようになつた。

当時は、男性と目を合わせることも許されぬ時代。もちろん、お互いに名乗りあうことはできなかつた。電車の中でドキドキしながら、遠征の日、遠く姿を見ることができうれしさが待ち遠しかつた。

桜の花の散るある日を最後に彼の姿は見えなくなつた。特攻機のつて出撃したのだろうか。私はしきりに気になつた。それからしばらく経つたある日、学校から帰宅すると、玄関に慌てて出てきた弟が「今、お姉さんに会いに飛行隊の士官さんが訪ねてきたよ。」今思つても、無我夢中で駅までとうやつて走つたか。ホームに立つた時、電車は静かに発車した。車窓の中を目で追いながら彼を探した。直立不動で敬礼している彼がいた。私の初恋は終わつた。

どうして、私の家が分かつたのか、七〇年近くの間、なぞともに忘れられない思い出である。紙面の訓練生の集合写真の中に彼の顔を、大きな天眼鏡で何度も何度も探しめた。涙が止まらない。名前も分からぬ人の生死を調べることもできない。七年近く、確かに心に温めてきた人、そして、この新聞も心とともに大切に置んでおこう。」

## シリーズ「自分を語る」#40

硬性「ルセツ」が標準化され、わざと遅延の語が用ひめになつてしまつた。この時

硬性「ルセツ」が標準化され、わざと遅延の語が用ひめになつてしまつた。この時